

会報

高揚大会特集号

栃木県中学校長会

発行日 昭和41年1月18日

会長あいさつ

栃木県中学校長会々長 大橋 信一

本日第二回栃木県中学校教育高揚大会を開催いたしましたところ、多数来賓のご臨席を仰ぐことができました事は、まことに感謝にたえません。これはまた、本大会の意義を一層高めるものであり、参会者の深く喜びとするところであります。

中学校は各関係者のご尽力によってここに十九の年輪を数えるまでに成長いたしました。まことに感懐のつきぬものがあります。終戦直後のあの事態の中で誕生した、中学校教育に与えられたあらゆる苦難はまことにきびしく、これを開拓し解決してきた関係者の精進は、きわめて尊いものがあるにもかかわらず、今もって中学校が必ずしも正しい位置におかれているとは、断言できないのであります。この意味において、本日の高揚大会は中学校の正しい位置づけとその発展のために意義深いものがあると信じます。今日中学校においてはまことに数多くの問題をかかえております。本日本大会

において最も強調したいことは、まず第一に中学校に優秀なる人材を確保する事であり、人材の確保は教育振興の第一条件であります。

しかるに給与三本建を始め高校への転出、その他諸種の事情によって中学校に人材が集まらず、かえって人材をして他に転出せしむるの結果を来たし、まことに憂慮すべき現象を生じております。第二は施設設備近代化の問題であります。学校経営の合理化、能率化、民主化を実現し、その自主性を高めるために施設設備の全般に亘っての近代化が強く叫ばれておりますにもかかわらず、いまだに体育館、各特別教室、特に理科室等の施設さえない中学校がある有様であります。教師に人材少く施設設備に事欠くに至っては、思うような成果をあげ得ないことは当然でありまして、ぜひともこの問題を一刻も早く解決してまいらねばならないのであります。第三は青少年育成の問題であります。今や交通問題と青少年問題

題は社会に大きな波紋をなげかけている二大問題であります。特に補導問題においては、学校・警察・補導員その他の機関が、二重三重にその手をさしのべてい



るにもかかわらず、非行青少年は次々と出現してそのあとをたたないのはどこに原因があるのか、学校教育の立場から考え、その対策を立てたいと思うのであります。本日のこの協議題はいづれも現在

の中学校にとってまことに緊要切実な課題ばかりでありますので、どうぞ十分なるご討議をお願い申し上げますと共に、その結論を栃木県中学校教育関係者の公論として、広く世に問い、中学校教育の正しい理解と認識とを求めたいと思っております。

従来さきの二協議題につきましては、文部・大蔵両当局ならびに国会に対し、全日本中学校長会として、再三交渉してまいったのでありますが、いわゆる頂点交渉のみでは十分なる成果が期待できません。来る十二月十一日には東京において中学校教育高揚中央大会を開催し、全日本の中学校教育関係者によくこれらの趣旨を納得していただき、世論の力によって中学校教育の充実強化をはかることになったのであります。本日本大会を催しました意義もまたここにあるのであります。

今私どもは、ここに十九年間築きあげた実績の上に立って、本県中学校教育をしてさらに大きな飛躍をこころみようとしております。本大会における会員PTA各位のご熱心なるご協議を期待すると共に、この盛大なる大会を契機として一層中学校教育が推進されますことをお願いしてごあいさついたします。

第二回栃木県中学校教育高揚大会

昭和四十年十一月二十七日

栃木県教育会館

県内中学校長PTA正副会長および五百人來賓を迎えて満員の盛況、討論また

熱を帯びて活気を呈し大成功を収めた。陽北中宇塚副会長開会を宣し、豊郷中

波多野校長のタクトで君が代斉唱、大会の趣旨について大橋会長挨拶。来賓祝辞を要約すればつぎの通り。

県会議長(橋本文教副委員長)

県民と共に県中学校教育の高揚発展にできる限りの力を尽したい。

県教委(小島教育委員)

当面の責任者として有力適切な方策を行なって問題解決に努力する所存である。特に義務教育軽視の社会風潮を是正することを期す。

市町村教委(上野俊三氏)

小中高の関連、就職進学、青少年育成の諸問題等十分な協議の上ご努力願いたい。

市町村教育長(鈴木長治氏)

教育行財政の立場から県教委と共に国家的見地において問題解決を図る要がある。

祝電披露 横川県知事、小平労働大臣、森下、森山、戸叶、高瀬、渡辺、武藤植竹、藤尾各国会議員、寺内県議、黒田前会長、小林全日中会長

川上小川中、友清真岡中、小松原佐野城東中、三校長を議長に選出、協議に入る。

別記三校長から協議題の説明あって、意見発表を行なう。

鍋掛中P 教育者は単なる公務員ではない。別格に扱い、安んじて、死ぬまでその持ち味を十分發揮できるように、優遇すべきである。

足利三中P エレキ是非について、青少年の健全育成の立場から、問題はエレキそのものでなく雰囲気にある。慎重

を期して対処している。

南河内中P 地教委は弱体化してはいないか。教育行政の推進を計るべくPTAは与党的役割をもって支援すべきである。

石橋中P 本大会の趣旨徹底のためには市町村に要望するだけでなく、県当局との交渉においてその実現を期すべきである。

鈴木長治氏 特に発言を求め、地教委制度その他拡充強化のため折角努力中の旨説明あり。

七井中P 教育尊重の風が県民全体にみながることが大切。マスキにも働きかけよ。政府県市町村各段階に亘って問題解決にあたれ。

藤岡一中P 土・日曜の学校行事はできないか。他県では代日休暇でやっているところがあるようだ。

川上議長 鈴木長治氏から説明を行なう(原則的にはできない)

黒田原中T 高校に比べて小中の設備は著しく悪い。市町村はまず自分の地域に力を尽すべきだ。県立は二のつぎでよい。

小島教委から釈明 地教委弱体化は全国的で首長の熱意にもよる。設備については全額国庫負担を目ざして努力を要する。なお、県立高校に対しては地元負担の軽減も考慮して処置している。県教委としては小中の設備充実にも深い関心を持っている。

右に關し発言の強い要望があったが議長打切りを宣し、宣言決議案を上げ。陽西中岩崎校長朗読の後可決。引続き石原研

研究会の紹介で講演に入る。終って大橋会長の謝辞、県PTA副会長藤瀨氏の発声で万才三唱。北山副会長の閉会の辞で完了。時に二時。

講演 これからの中学校教育

東京都教育長 小尾扇雄先生

日教組、中学教育の内容と教育課程審議会、入試準備教育禁止。以上現実の問題三点について。世界的視野から考察する方が、より正しくより理解しやすい。文部省と日教組の対立など外国には例がない。政府の教育政策は国会に問うべきで日教組に聞く必要はない。教師の地位に關する条約、交渉できめるべきだと草案に、外国はみんな賛成日本では問題になる。相互の不信に基づくようだ。現在の子どものほうなのか。そこから教育課程を考えるべきだ。内容は程度が高すぎる。時期にも問題がある。外国では九才から十二才までに語学の基礎力をつける。記憶力の旺盛な時にやる。能率

中学校教職員に人材を確保する方策

野木中学校長 館野晋平

義務教育の完成と前期中等教育の使命を担う中学校教職員に人材を誘致することが困難になっている。その原因を究明し至急対策を確立しよう。

一、給与の改善をはかるべきである

一、民間給与との格差

わが国主要会社の昭和四十年年初任給(労働法令協会調)は四年制大学卒男子

二三、八二〇円
二一、七五〇円
味、素 三〇、一二〇円
住友化学 二九、一七四円
日本板硝子 三〇、四〇八円
ビール三社 二八、五〇〇円
田辺製薬 二七、五〇〇円
藤沢薬品 (男)二六、四〇〇円

義務教育の完成と前期中等教育の使命を担う中学校教職員に人材を誘致することが困難になっている。その原因を究明し至急対策を確立しよう。

一、給与の改善をはかるべきである

一、民間給与との格差

わが国主要会社の昭和四十年年初任給(労働法令協会調)は四年制大学卒男子

的だ。人間像、どんな人になりたい、どんな人が好きだ、は個人の問題で、政府が介入するのはおかしい。そんな国はない。教育課程改訂は現実に即して行なわれるべきだ。

入るは易く出るは難い。外国は実力本位だ。学校差も学歴もない。テスト、教育ママ、入学ママすべて入試や学歴につらなる。学力や学歴を人間評価の基準にする、人格が下劣になる。これが日本の現状だ。

現在の日本には教育の中心がないと言え。果してそうだろうか。天皇制はなくなったが、みんな仲よくやっているではないか。日本の家庭の温い雰囲気、日本人のやさしい親切、伝統的な微妙な美が到るところにあふれている。美を愛する心、感覚、これらの教育が大切である。自分で判断し自分で行動する個人主義、自立の精神を養成すれば、近代化することができると思う。(小川)

小・中学校教諭	男女共	男女共	差額
初年度	三、七五〇円	三、六〇〇円	一五〇円
十年目	五、七五〇円	五、六〇〇円	一五〇円
二十年目	五、七五〇円	五、六〇〇円	一五〇円
最高	六、八〇〇円	六、六〇〇円	二〇〇円

四〇年四月と比較すると

昭和二十八年教員俸給特別法の修正により「同一学歴同一給与」の原則は破られ、中学校教員の高校への転出者が増加してきた。

2、給与二本建

教諭になるには余分に教職単位をとる必要がある。戦前官立高専卒男子で銀行会社に入る者は六〇〇六五円で、中等学校教諭になる者は、八〇〇円であった。現在は余分に勉強した者が一〇〇%も安いの。

藤倉電線 (男)二二、〇〇〇円 (女)二〇、〇〇〇円
日本生命 (男)二四、六二〇円 (女)二〇、〇一〇円
清水建設 二五、七〇〇円
東武鉄道 二二、四八〇円
東京電力 二一、五〇〇円

二、労働条件

1、教員定数

中学校	校長教員三人
高等学校	校長教員三人

2、事務職員

中学校は一三学級以上一人一二学級以下配当無し。高校は大小にかかわらず三人(大規模高校はさらに増配される)ほかに養護教諭、学校司書、助手が配置さ

を期して対処している。

南河内中P 地教委は弱体化してはいないか。教育行政の推進を計るべくPTAは与党的役割をもって支援すべきである。

石橋中P 本大会の趣旨徹底のためには市町村に要望するだけでなく、県当局との交渉においてその実現を期すべきである。

鈴木長治氏 特に発言を求め、地教委制度その他拡充強化のため折角努力中の旨説明あり。

七井中P 教育尊重の風が県民全体にみながることが大切。マスキにも働きかけよ。政府県市町村各段階に亘って問題解決にあたれ。

藤岡一中P 土・日曜の学校行事はできないか。他県では代日休暇でやっているところがあるようだ。

川上議長 鈴木長治氏から説明を行なう(原則的にはできない)

黒田原中T 高校に比べて小中の設備は著しく悪い。市町村はまず自分の地域に力を尽すべきだ。県立は二のつぎでよい。

小島教委から釈明 地教委弱体化は全国的で首長の熱意にもよる。設備については全額国庫負担を目ざして努力を要する。なお、県立高校に対しては地元負担の軽減も考慮して処置している。県教委としては小中の設備充実にも深い関心を持っている。

右に關し発言の強い要望があったが議長打切りを宣し、宣言決議案を上げ。陽西中岩崎校長朗読の後可決。引続き石原研

3、勤務量

中学校教員週授業時数二六時間、高校教員週授業時数一八時間。

中学校教員は本務以外の雑務が多く、生徒は青年前期の変動期であり、義務制のため質の差が甚だしく指導に苦勞が多い。

四十年六月に全日本中学校長会が厳密に実施した勤務量調査の結果は次の通りで、週四四時間をはるかに越えている。教員一人当り週勤務時間

六大都市	五、六時間	五学級以上	五、六時間
中都市	四、四時間	三学級	四、五時間
小都市	三、五時間	二学級	三、七時間
農村	二、五時間	一学級	二、七時間
漁村	二、二時間	六学級以下	二、五時間
平均	三、三時間	平均	三、三時間

な。この調査で地域により正規の免許科目以外の教科を臨用で担当している教員が意外に多いことが判明した。これは交通規則の無免許運転に該当し、しかも強制された無免許運転で、被害は生徒の学力に及ぶ。

3、教員養成制度の改善

1、教員養成の大学

(1) 初等教育(幼・小)の教員養成コース

(2) 中等教育(中・高)の教員養成コース

2、教員免許法の改正

(1) 短大卒 初級(三級)免許状

(2) 四年制大学卒 二級普通免許状

(3) 修士課程修了 一級普通免許状

3、教員志望者に対する育英制度

この制度を充実強化して優れた教員志望者が得られるよう配慮すべきで

施設設備を近代化する方策

城山中学校長 戸田博巨

最近教育の世界でも「近代化」「現代化」のことばが多く使われている。かつて愛知前文相は「未来からの呼びかけにこたえていく教育ビジョンを打ち立てることが、これからの教育である」と教育の近代化をキャッチフレーズにした。また、ジョンソン米国防長は四十年年度頭初議会に援助費四億ドル(一兆四千七百六十億円)支出を要請した教育教書の中で「わが国の将来にとって教育ほど重要なものはない。軍備も教育に劣る。民主的政治組織も市民的無知であるならば自由はもろいものとなるからである」とこのように次代を荷負う青少年教育の重大さを思う時、発足二十年になろうとする中学校教育の現状(特に施設設備近代化は多くの人々の努力にもかかわらず)を心ざしく感ぜざるを得ない。教育の近代化の根底は企業における合理化、能率化、組織化、機械化等の主張にも起因するが、教育における人間尊重の実現にはかならない。教育の場におけるすべての生徒が各人の能力に応じて教育される最大限にその可能性を伸ばすことのできる教育とは、この願いから出発していることを忘れてはならないのである。

さて、施設設備の近代化を要請する原因はいろいろあるが、私は次の六項をあげる。

1、教育課程の完全実施のために

中学校発足以来、常に教育過程の完全実施を目指して努力を続けながらも、特別教室の完備(理科実験室、準備室、技術室、調理室、音楽室、美術室)など、いまだ十分でなく、教育課程の完全実施という最も素朴な願いすら満たすことができない現状にあるのをどうするかというのである。

2、科学技術の進歩や指導技術の進歩から

科学技術の進歩による新しい教具教材等が数多く市販され、これによる指導技術の進歩と相まって、すばらしい効果をあげているにもかかわらず、依然として白墨と黒板授業が続けられるようでは、新しい教育効果を期待することができない。視聴覚教具教材の完備、図書館の充実強化等の重要なわけもここにあるのであろう。

3、生産技術の進歩や生産増大の影響による障害を除去するために

河水の汚染や川の危険は年々その度を

を期して対処している。

南河内中P 地教委は弱体化してはいないか。教育行政の推進を計るべくPTAは与党的役割をもって支援すべきである。

石橋中P 本大会の趣旨徹底のためには市町村に要望するだけでなく、県当局との交渉においてその実現を期すべきである。

鈴木長治氏 特に発言を求め、地教委制度その他拡充強化のため折角努力中の旨説明あり。

七井中P 教育尊重の風が県民全体にみながることが大切。マスキにも働きかけよ。政府県市町村各段階に亘って問題解決にあたれ。

藤岡一中P 土・日曜の学校行事はできないか。他県では代日休暇でやっているところがあるようだ。

川上議長 鈴木長治氏から説明を行なう(原則的にはできない)

黒田原中T 高校に比べて小中の設備は著しく悪い。市町村はまず自分の地域に力を尽すべきだ。県立は二のつぎでよい。

小島教委から釈明 地教委弱体化は全国的で首長の熱意にもよる。設備については全額国庫負担を目ざして努力を要する。なお、県立高校に対しては地元負担の軽減も考慮して処置している。県教委としては小中の設備充実にも深い関心を持っている。

右に關し発言の強い要望があったが議長打切りを宣し、宣言決議案を上げ。陽西中岩崎校長朗読の後可決。引続き石原研

を期して対処している。

南河内中P 地教委は弱体化してはいないか。教育行政の推進を計るべくPTAは与党的役割をもって支援すべきである。

石橋中P 本大会の趣旨徹底のためには市町村に要望するだけでなく、県当局との交渉においてその実現を期すべきである。

鈴木長治氏 特に発言を求め、地教委制度その他拡充強化のため折角努力中の旨説明あり。

七井中P 教育尊重の風が県民全体にみながることが大切。マスキにも働きかけよ。政府県市町村各段階に亘って問題解決にあたれ。

藤岡一中P 土・日曜の学校行事はできないか。他県では代日休暇でやっているところがあるようだ。

川上議長 鈴木長治氏から説明を行なう(原則的にはできない)

黒田原中T 高校に比べて小中の設備は著しく悪い。市町村はまず自分の地域に力を尽すべきだ。県立は二のつぎでよい。

小島教委から釈明 地教委弱体化は全国的で首長の熱意にもよる。設備については全額国庫負担を目ざして努力を要する。なお、県立高校に対しては地元負担の軽減も考慮して処置している。県教委としては小中の設備充実にも深い関心を持っている。

右に關し発言の強い要望があったが議長打切りを宣し、宣言決議案を上げ。陽西中岩崎校長朗読の後可決。引続き石原研

増している。即ち農業技術の進歩による薬品の多量な使用、工業用水の流入による汚染、砂利採り業者の川砂利採取跡の危険等から子どもたちを守るためには水泳施設(プール)が必要となる。

4、生徒の心身発達から考えて

戦後の栄養改善により生徒の体位向上はめざましいにもかかわらず、使用している机、腰掛け等の規格は改められていない。長くはみだした足、背を丸めなければ使用できない机では健康な生活はのぞめない。一日も早く生徒の体位にあうよう改めるべきである。

5、社会の急激な前進に対処するために
道路の混雑、交通戦争、仕事の機械化等にマッチする体力、敏捷にして巧致性に富む持久力は、雨天だから、校庭がぬかるからの室内授業では養われない。体育館設置はその解決策の一つである。

6、男女共学の反省から

男女共学には大いに賛成する。だが中学生のおかれては身体的発達状況からみて、男女別更衣室の設置、便所等の別棟設置は果して考慮されているだろうか。解決すべき問題である。

以上述べたが、これら実現への道はけわしく遠い。しかし、協力することによって完遂する以外に道はない。その方法として私は次のことを提案する。

- (1) 広く必要性を訴え、国民運動として発展させて当局への認識を深めて協力を依頼する。
- (2) 中学校設置基準を法制化して学校施設設備を完備する。
- (3) 義務教育に対する国庫支出金を大巾に増額し、国の責任において整備し、すべての子弟が平等に教育を受けられるよう善処要望する。

青少年を健全育成する方策

氏家中学校長 渡辺久作

すべて物事を深く考える時に、数学のように式をたて、順序よく考え、または図解してわかり易くして考えることが、能率もあがるし、かつ正答が得られるものである。

これをただ頭の中でばかり考えると、どうどうめぐりをして思わぬ時間の損失を招いたり、独断におち入ったりすることも少なくない。

そこで青少年健全育成という問題を考える場合、まず不良化の原因、条件をさぐって、これを除去し、改善することが重要であるということから、次の公式(渡辺方式)を考えてみた。

情緒不安定 × 物的条件 × 時間的条件
(欲求不満) × (環境) (機会)

自己統制力 || 行動(非行)

さらにこの公式に、例えば情緒不安定についていえば、安定しているもの0、不安定のもの1、著しく不安定のもの2というように各項目について、三種類の数を代入してみると、八十一種類の型が出来るが、おもしろいことに大部分は、ゼロまたはマイナスとなり、実数となる場合は、8が最大で一回、7が一回、6が一回、4が一回、3が一回、2が六回1が四回というように十九回しかないことがわかった。

この公式と代入から考えて、非行をなくするため、即ち右辺をゼロまたはマイナスにするためには、情緒不安定、物的条件、時間的條件のどれかをゼロにするか、自己統制力を左の三項目の相乗積より大にすればよいということは、だれでも気がつくことである。

これが非行防止という消極的対策から健全育成という積極的対策にきりかえればよいのであって、数学という応用問題が即ちそれである。

一、情緒を安定させる方策

1 調和と統一のある学校経営
学力偏重をさげ、全人教育を行う、進學一辺倒から調和と統一ある学校経営(1) だれでもスポーツを楽しむ学校

(健康教育重視)

- (2) 全員参加の文化祭(情操教育実施)
- (3) 就職生の課外指導(進學一辺倒をさげる)

2 学校環境の整備

- (4) 花と緑と水が適当に配置されたうるおいのある学校
- (5) 公平で愛情のあふれた教師、友情にあふれた友人
- (6) 奉仕学級、JRC

二、校外の物的環境の浄化

消費文明とマスコミの弊害は山積しているが、社会、家庭教育とタイアップして、これが浄化につとめ、被害を最少限度にいとめることが大切である。

三、時間的條件の整備

「小人閑居して不善をなす」のことばの通り、暇をなくすることが一つの方法であり、何かの目標を設定して、わき目もふらず努力するように仕向けることも大切な事である。

本校では学校行事を、特に問題の起

り易い、二・三学期に配分し、十月体育祭、十一月文化祭、十二月努力賞、報徳賞授与、一月町内一周駅伝、二月立志式、就職生慰安旅行、三月卒業式というように、全員が同一目標で、主として学級単位の競争によって、各個人が最大の努力をして、クラスのために貢献し、協力することになっている。

四、自己統制力を強める方策

1 信賞必罰

(1) ルールを守る || 私たちのきまりを生徒会総会で決定し、これを厳正に守る。

(2) 報徳善行賞 || 生徒に推せんさせる小さな親切運動。

(3) 氏中ノーベル賞

- (4) 家庭教育・社会教育との連絡掛けい
- (5) 教育隣り組制度の活用 本校だけで一八五の隣り組があり組長が補導員となる。生徒十人内外

(6) 立志式 中学二年生、立春の日に三百名近い来賓臨席のもとに実施

主催 氏家町・氏家町青少年問題協議会

3、育英制度による誇をもたせる。

特奨生(二七名)、一般奨学生(八名) 氏家町奨学生(二五名)

4、道徳教育、宗教的情操の涵養

編集後記

○昭和四十一年の新春を迎えて、まことにめでたうございませう。会員諸氏のみならずご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

○本号は去る十一月に開催した本県中学校教育高揚大会を記念し、特集号といたしました。内容をよくご覧下さると共に、各関係者にも広くお知らせ下さるようお願いいたします。(岩崎記)